

## 矢上驛由来

三江線川本因原方面より田所大朝を経て廣島に至り更に日貫川戸方面を結ぶ路線は、邑智郡内に於ける最重要幹線として夙に國營自動車の業務開始方につき郡民等しく渴望し、關係町村挙つて當局に誓願せる処、昭和二十二年五月之が開通の運びとなる。同時にその中間要衝地点として矢上町京町に矢上驛が設置せられ業務を開始し、次いで全二十三年三月矢上町三八三〇番地森脇安治氏所有の宅地並びに建物を驛舎として承継取得したり。此の間縣立矢上高等學校の開校、次いで町制の施行を見、爾來養老院其他諸施設の充實に伴い旅客貨物の往來は頻繁となり、國營自動車の利用激増し従來の驛舎にては狭隘を告げ、業務遂行上圓滑を欠くの状態となり、全二十六年三月に至り當局の協力により金七十七萬圓を投じて驛舎の改築に着手し、全年十月末日二階建一棟延坪四十坪、車庫一棟十一坪計五十五坪の近代的驛舎を竣工し、大方の利用者に便益を與え、地方振興に資したり。

昭和二十六年十一月二十日

中国地方自動車事務所長	吉田 敏郎
全 管理主幹	岩村 勝人
設計者 全管理主幹付	中村 興忠
	石川 甚助
川本自動車営業所所長	好宮 虎一
全 助役	岸 政夫
全	稻垣 熊市
全 元矢上駅長	跡田 春延
工事執行者 三國組	三國 富吉
矢上町 町長	森脇 有一
全 町議會議長	三宅 信一